

三井のリフォーム住生活研究所長 西田 恭子

神様と暮らし

五月に、当社の本社機能と首都圏のいくつかの営業所が新宿三井ビルに集結した。

開所式には神棚を清め、神を供えて神主様をお迎えした。今後の事業の発展をお願いすると同時に、工事現場をかかえる当社は安全祈願も大事なことである。社員全員が頭をきげてお払いをもらい、お神酒をいただいた。

神社との関わりは、新年の互例会の時にもある。会社の近くの神社にお参りし、一年の祈願をする。「ご利益! ご利益!」と念じながら毎年行っているうちに、行かないと悪いことが起きそうな気がして行かずにはいられなくなってきた。

家づくりにおいても、方位とかお仏壇の位置とか、大きなリフォームであればあるほどこだわりが出てくる。なんとなく気に掛かることは、いくつもあるだろう。「頭を北側にして寝る、北枕はいけないだろうか?」「ご仏壇の上に物を置いてはいけないのだろうか?」「北向きの神棚でもいいのだろうか?」など

など。

「気にしないわ」とおっしゃった方も、知ってしまふと悩み始めるものだ。全く気にしないと言う方、一般的に守られていることは遵守するという方、そして専門の方に見てもらう方までさまざま。

私はというと、仏壇の位置と枕の向きだけはなんとなく気に掛け、どちらか北向きを避けている。死者の



極楽往生を願う遺体を安置する際に北枕とすることが、北イコール死者のイメージを持つからだ。義母を自宅で看取ったときも葬儀屋さんから「北はどちらですか?」と聞かれた。

ご先祖様を敬うことは大事だという思いと、ご先祖様とお会いするのは、もう少し早く先にしたという思いから、これぐらいは気にしてもいいかもしれない

と思っている。ただ仏壇屋さん聞いてみたら、「可能であれば実行してほしい程度」と言われ、気が楽になった。

そういえば風水ブームも通り過ぎたのか、あまり言われなくなったが、気にされる方もいるので、女性リフォームプランナーの研修会で、風水の先生をお呼びして勉強会を行ったことがある。

その時に話された、玄関の鏡の位置は大変説得力があった。リフォームでは狭い玄関を広く見せる手法として、壁一面鏡張りにすることもあるのだが、玄関に入ると正面の鏡は駄目だと言う。入ってきた人を跳ね返し、家に招き入れないようにしているというのだ。

なるほどと思うと同時に、玄関に入ったとたんに、自分の顔や姿を正面から直視するのはききよとすると思っていたものだ。

言われることにはすべて理由がある。聞いてしまふと気になることを考えると、私はそろそろこれ以上耳に入れないことにしようと思っ



西田恭子氏のプロフィール「一級建築士。「三井のリフォーム」で設計を手かけ二五年。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。文化女子大学非常勤講師。日本女子大学住居学科卒。